

■宮城道雄 盲人箏曲家、作曲家。西洋音楽を取り入れた傑作を次々と発表、世界的になるも、列車から転落死した。

みやぎみちお

日清戦争始・1894 = 神戸で長男に生まれる。生後200日ころに角膜炎を病み、

子規句歌革新1898 = 4歳：母が家出し、父が再婚。

教科書疑獄・1902 = 8歳：失明の宣告を受けた。箏曲・地歌を生業に選り、神戸の2世中島検校に入門。祖母と住む。

日比谷公園・1903 = 9歳：初めて公開の席で演奏。

日露戦争始・1904 = 10歳：2世が病死したため、続いて3世中島検校に師事、

日露戦争終・1905 = 11歳：父が朝鮮に移住。免許皆伝、中曹の芸姓を許され、師の代稽古を務める。

韓国反日暴動1907 = 13歳：朝鮮の仁川に移住、箏曲教授を開始。

伊藤博文暗殺1909 = 15歳：*作曲をも志して処女作「水の変態」を作曲。伊藤博文の前で演奏。

韓国併合・1910 = 16歳：京城(ソウル)に移住し、喜多仲子と共同生活。

明治天皇没・1912 = 18歳：検校となる。

大正政変・1913 = 19歳：仲子と結婚、妻の生家の宮城家を再興。洋楽を取り入れた最初の作箏曲「唐砧」を作曲。

第一次大戦始1914 = 20歳：京城で、生涯の協力者となった琴古流尺八家吉田晴風と出会う。

その間も、京城との間を往来して、神戸の旧師や熊本の三味線の名手長谷検校に師事して研修を続ける。

ロシア革命・1917 = 23歳：妻が死去。両人は東京進出を図り、相前後して上京。生活苦と闘いつつも洋楽作曲法、洋楽器、雅楽などを学び、箏、三味線、尺八の音楽を基礎に洋楽的要素を摂取した新傾向の作曲活動を本格的に開始。

本格政党内閣1918 = 24歳：入門してきた吉村貞子と再婚。初めて、レコードに吹き込み。

べルサイユ条約・1919 = 25歳：第1回自作発表会(「秋の夜」「唐砧」「若水」など)。歌曲「秋の調」、

大暴落・・・1920 = 26歳：*第2回自作発表会。洋楽系の本居長世との合同作品発表会の際に、吉田の発案で「新日本音楽」と銘打ったが、以来これが宮城、吉田らの新作活動の通称となった。保守的な邦楽界は冷淡だったが、文化人、評論家、洋楽作曲家の注目を浴び、各界人士による後援会もスタートする。

原敬首相暗殺1921 = 27歳：第3回自作発表会(「花見船」「落葉の踊り」)と3年続けて催す。

関東大震災・1923 = 29歳：以降、初世中尾都山とも提携、帯同して各地を巡演、都山流の組織により宮城曲は全国的に普及する。多くの新作曲の発表、新楽器(十七弦、新胡弓、短箏、八十弦)の考案、楽譜の著作等々、顕著な業績がこの期に集中している。演奏活動も死にいたるまで盛んで名手といわれ、ラジオ放送第一日に出演大編成の「薙露調」を演奏するなど、草創期のレコードやラジオにも積極的に出演したので名は大いに広まり、他方、古曲演奏や古曲風新作曲にも努力したため、その実力は保守勢力からも評価されるにいった。

治安維持法・1925 = 31歳：ラジヲ放送第一日に出演大編成の「薙露調」を演奏するなど、草創期のレコードやラジオにも積極的に出演したので名は大いに広まり、他方、古曲演奏や古曲風新作曲にも努力したため、その実力は保守勢力からも評価されるにいった。

共産党事件・1928 = 34歳：箏と管弦楽「越天楽」、

世界恐慌・1929 = 35歳：室内楽「春の海」、

海軍軍縮条約1930 = 36歳：朝鮮を演奏旅行。よし子を連れかえり、養女とする。東京音楽学校講師。東京盲学校でも教え、そのころから自宅の門弟も急増、

満州事変・1931 = 37歳：*宮城寮を開設。以後、社中の階級、職格などを制定、

五一五事件・1932 = 38歳：来日したバイオリン奏者シュメが宮城の「春の海」を編曲して合奏、レコードが国内外で好評を博した。

帝人疑獄事件1934 = 40歳：機関誌{おとづれ}を発刊。

芥川直木賞始1935 = 41歳：最初の随筆集「雨の念仏」、

二二六事件・1936 = 42歳：随筆集「騒音」。父が死去。皇太后陛下御前演奏。

日中戦争始・1937 = 43歳：随筆集「垣隣り」「春秋帖」。実母が死去。東京音楽学校教授。

戦局が進むにつれ、軍の病院など、慰問演奏が増えて行く。

第二次大戦始1939 = 45歳：

大政翼賛会・1940 = 46歳：皇紀2600年奉祝芸能祭交響作品発表会で「祝典箏協奏曲」。

・・・1942 = 48歳：東京盲学校講師を退職。

創価学会検挙1943 = 49歳：養女よし子が結婚、直後に死去。

敗戦・・・・1945 = 51歳：疎開中、東京の自邸が空襲で全焼。

新憲法公布・1946 = 52歳：部屋を借りて、稽古を再開。

極東裁判決・1948 = 54歳：芸術院会員。新制東京芸術大学の邦楽科除外に反対し、設置運動のため辞表を提出。

三大事件・1949 = 55歳：随筆集「古巢の梅」。邦楽科設置が決定され、

朝鮮戦争始・1950 = 56歳：東京芸術大学専任講師となる。第1回放送文化賞。吉田晴風が死去。

独立回復・1951 = 57歳：門弟たちの社中が宮城会として組織され、現在も生田流箏曲界の一大会派として存続する。

TV放送始・1953 = 59歳：宮城会館が落成。フランスとスペインで催された国際民族音楽舞踊祭に日本代表として参加、イギリスにも遊び各国で演奏して好評を博した。

国連加盟・1956 = 62歳：*大阪への演奏旅行の途次、誤って夜行列車から転落、死去した。